

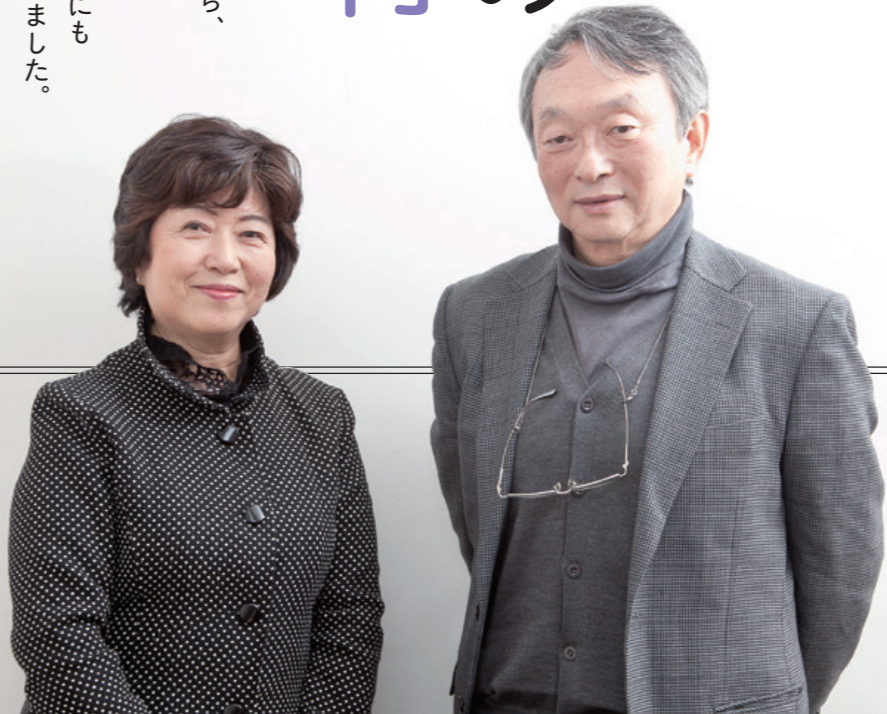


“地球規模”で
考えられる
人になる！

これからの 英語教育

英語教育の在り方が、大きく変わろうと
しています。知識を積み上げていく英語から、
世界と対話するための英語へ。

これからの子どもたちの学びを、親として
どう支えていくべきか、文科省の教育改革にも
深く関わられている吉田先生にお話を伺いました。



教えてくださったのは

吉田研作先生

上智大学言語教育研究センター長。英語教育、バイリンガル教育、異文化間コミュニケーション教育の第一人者。文科省の英語教育改革に関するさまざまなプロジェクトにも尽力されている。

話を聞いたのは

源馬恵子先生

小学館アカデミーの英語教室にて長年指導に携わった後、英語教材開発および講師研修を担当。現在は「J-Shine認定・小学館アカデミー小学校英語指導者養成講座」を主宰。

——まずは日本の
英語教育の現状と
今後について
お聞かせください

小学校の英語教育を3、4年生に前倒しする、5、6年生では教科とするなどの教育改革が2013年に発表されましたね。国はこれまでの英語教育では、急激に進むグローバル化に対応できないと考えているわけです。日本人の学力は世界で高いと評価されていますが、実は英語だけは下から数えたほうがはやいことを知っていますか？ それは、日本にどれだけ豊富な知識や素晴らしい技術があっても、世界に伝えるコミュニケーション力がない、ということなんです。今、私たちが日常的に使うもの、食べるもので、国内だけで生産できるものはほとんどありません。これからは、地球規模で考えて、共有していく時代になるからこそ、必要なのは世界と議論できる英語力。そのための教育改革なんです。ただそこには大きな問題がもうひとつ。それは受験です。コミュニケーション力を高めたいのに、受験は知識重視。そのため、テストに向けた教育になってしまいう可能性もあります。ですから入試そのものにもメスを入れようという、大胆な提案がされています。小学校からボトムアップでどんなに改革しても、最後のところで入試が変わらなければ何もなりません。

——これまでの
英語教育の問題点とは
何でしょうか

昔は、ネイティブの英語を学ばなくてはいけないという固定観念があったんです。でもそれは現地に住んで朝から晩まで英語にひたした生活をしなないと無理。だからすぐに、できない、やっぱダメだった、となるんです。私がミシガン大学にいたとき、多くの日本人教師たちが英語の集中講座に参加していましたが、英語の先生中にはほとんど話さない人がいました。自分の英語はネイティブじゃないから、日本語訛りだから、間違えと恥ずかしいから。そういう時代だった。

——日本人も英語に
対する発想の転換が
必要という
ことでしょうか

ドイツ訛りの英語を話します。そこにネイティブかどうかという価値は存在しません。通じるということが大事で、说得できればいい、議論できればいいんです。機能として使えれば、訛りも文型も問題ではない。まさに発想の転換です。

——お子さまのために、
親御さんが家庭で
できることはありますか

大事なのであって、単純にネイティブスピーカーのように話すことが大事なのではない。そう思っている人は多いですね。発音も実はコミュニケーションをたくさんしている人ほど上手、というのがあって、発音をよくしようと思って話しよりも、相手に伝えよう伝えようとやっていると、いつの間にか発音がよくなる、文法力も上がっていく。目標をしっかりとコミュニケーションにおいていけば、必要な知識や技術などは備わってくるものなのです。

——小学館アカデミー
イーコラボでは物語を
素材として英語学習を
行っていますが、
英語で物語を聞かせる
のはどうでしょうか

物語はすごくいいと思います。僕はアメリカで紙芝居をやったことがあります。200人近く集まって、すごくよろこばれた。紙芝居って、お話を読む人がいて、聞く人も目の前にいるから、コミュニケーションが生まれるんですね。一方通行のテレビやDVDとは大きく違うところ。前のほうに座った子どもたちの反応を見ながら、僕もいろいろ言ったりする。これが本当に楽しい。絵本が良いってよく言われますけど、単に絵本が良いのではなく、親子がコミュニケーションできるから良いんです。アナログのよさですね。どんなインタラクティブなコンピュータのプログラムよりも、1冊の絵本。ひとつの物語を通して生まれるコミュニケーションは、英語に興味をもつよいきっかけになると思います。

「国際共通語」という
発想ですね。

ネイティブな英語である必要はない。
伝わりが大切。



ようやく、その発想を日本も取り入れようとしています。やっぱり発音は大事だよ、という人がいると思います。それはもちろんそうです。でもそれは、自分の言いたいことがより相手に伝わるために

環境づくりだと思えます。周りに英語の本があるとか、洋画を見るとか、あと英語の音楽を聴くとかね。テレビでよく海外の国を紹介したり、旅行したりする番組がありますが、僕も大好きなんです。子どもたちも関心もちやすい。モロッコってこんな国なんだ！ とかね。「英語を教えよう」ではなくて、いろいろな国があって、いろいろな見方、考え方があるんだということとを、まずは知ってもらおう。多様性の中で生きていくためのコミュニケーション力。英語が英語なわけですから。また併せて、親御さんの気の持ちようも大切。自分ができなかったから、子どもには英語を、というのはNG。子どもにすれば親は神様みたいなものですから、神様ができないのに子どもができるわけあり

——ありがとうございました